

学校関係者評価報告書

2021年度

自 2021年4月 1日

至 2022年3月31日

専修学校 厚生労働大臣指定・製菓衛生師養成校
日本菓子専門学校

目的

学校関係者評価委員会(以下、当委員会)は、日本菓子専門学校(以下、本校)の自己評価において、客観性・透明性を高め、学外の関係者より客観的・専門的な助言を得ると共に、相互の連携を促し、学校運営の改善への協力を促進する事を目的として、当委員会を組織した。

当委員会は、本校の自己評価を資料とし、関係教職員との意見交換等を通し、本校の学校運営・教育活動等について、検証および評価、助言を行う事を目的として実施している。

当委員会の委員は、本校の教育理念を理解し、菓子業界に精通した学外関係者を校長が選考し、委託をしている。

報告書は、2021年度の自己評価表を資料として、当委員会として評価および助言をまとめ作成したものである。

学校関係者評価委員

三浦 秀一 「日本菓子専門学校 校長」

大島 陽二 「レピドール洋菓子店 会長」

黒田 寛 「日の本穀粉 株式会社 代表取締役」

高澤 勉 「和菓子処 八洲 社長」

柳 正司 「パティスリー タダシ ヤナギ オーナーシェフ、
(公社)東京都洋菓子協会 会長」

和泉 光一 「アステリスク オーナーシェフ、
(一社)日本洋菓子協会連合会 指導委員」

学校関係者評価

1. 教育理念 「菓子業界の期待に応える人材づくり」

①現状における課題点

- ・教育理念や人材育成、将来構想など学生などへの周知は概ね出来ているが、更なる社会経済、業界のニーズを踏まえ、店舗経営を意識し、生産効率を考えた教育、授業等、実社会に社会人として活躍出来るための、学校教育の方向性を考える事が必要。
- ・基本理念は変えてはならないが、コロナ禍により社会構造が一層早く変わったと思う。SDGsなどの理念も加え得ていく必要があるのではないか。
- ・創立からの理念・目的は62年間ブレずに進めていると思われる。
- ・人材育成・将来構想も学生への周知はできている。
- ・今後の社会経済に即した方向性も考えるべきである。
- ・入学検討者には学校創立の経緯の更なる周知も必要である。
- ・業界で活躍するための心構え、特に現場とはという理解を教育する必要がある。
- ・教育理念自体は良いが、それを活用できているかは疑問である。現場で通用するにはどうすべきか、また菓子作りの楽しさだけでなく厳しさも人材育成のためにも教えていくべき。

②学校関係者評価委員会からのご意見・ご要望

- ・将来的には、商品開発や、情報発信などについても学べる環境があると望ましい。
- ・自己満足せず、社会のために貢献することの大切さも伝えてほしい。
- ・IT化などの新しい授業形態も検討し、菓子業界のニーズを踏まえた地域社会への貢献、学校教育の方向性の拡大も考察していく必要はある。
- ・今後も業界の要望に応える人材作りを目指す事を希望します。
- ・HRや保護者会においても周知を行う。
- ・研修などにより職員1人ひとりの意識向上、学生との接し方や距離を改めて見直してください。

2. 学校運営

①現状における課題点

- ・運営方針、事業計画、人事、給与に関する規定などは時代に合わせて策定、整備されており問題ないと思われる。
- ・これからの18歳未満人口の減少に対応すべく、学生の要望に応える新学科の開設、さらなる業界の要望に答える講習会、勉強会の開設を検討。
- ・教職員の士気の向上。
- ・現状に満足することのない姿勢を維持する。
- ・各会議をもっと有益なものにするべき。
- ・業務の効率化に向け、メールやSNSなどを活用しペーパーレス化への推進。

②学校関係者評価委員会からのご意見・ご要望

- ・コロナ禍、少子化などの問題もあるが学生数の確保の工夫を行っていくべき。
- ・入学から在籍（出席・成績管理）・卒業後の管理のトータル化を目指してほしい。
- ・今後もオンラインによる、出張などの業務負担を軽減し、簡略化を目指してほしい。
- ・学校内で情報共有化をさらに進め、よりよい学生管理運営を進めていただきたい。
- ・学校教職員とのコミュニケーションを徹底し、諸問題を共有・共通認識し、校長のもと、団結して業務を改革し、よりよい学校運営を行ってほしい。加えて、今の時代に合った若い人の感性・価値観を認め合い、若い力の創出・登用を望みます。
- ・特定分野の専門家の講習を職員向けに行うことで士気を高める。
- ・学生のスマートフォンの全面禁止を取りやめ、柔軟な規則づくりに努める。

3. 教育活動

①現状における課題点

- ・教育理念に沿った履修規定、実施方針に基づき、多方面からのカリキュラム編成されている。
- ・教職員の能力開発のための研修、実践的な職業教育をカリキュラムに取り込む事が課題。
- ・製菓・材料・機械など日進月歩で変わっていくので、基本と共に新しい考え方もどんどん取り入れてもらいたい。
- ・関連企業・業界団体との連携を更に進め、WEB講習会、販売授業の拡大をはかり、カリキュラムに実践的な職業教育を組み込むよう考える。
- ・教育方針に沿った履修要項の作成を行い、各科フレキシブルに指導をしていく。さらに時代に対応できる内容を盛り込んでいていただきたい。
- ・学生の技術向上も大事ではあるが、学生の精神面を鍛える取り組みも必要である。
- ・基礎的な授業内容も不可欠だが、その中で更に時代に合ったカリキュラムの見直しを行っていくべき。
- ・外部講師によって応用的な菓子づくりは学んでいるが現場の流れや雰囲気を知らない学生が多い印象がある。

②学校関係者評価委員会からのご意見・ご要望

- ・入社前までに、一般常識、計量のための比率計算など、製造に不可欠な学力を身に着けさせることでスムーズに社会人として仕事に取り組めるようにしていく。
- ・ルセットをフランス語で表記し、理解できることが望ましい。
- ・ヴィーガン、アレルギーなどの食生活関係、表示問題なども教育の中に入れてもらいたい。
- ・業界と連携を深め、ニーズにあった授業を組み込む。
- ・技術の修得を更に進めて行ってほしい。
- ・産学連携による授業の導入を検討していく。
- ・職員のスキル向上に対する研修導入を更に進めていく。
- ・現場で活躍できる精神力を身に着けさせる。
- ・任意ではなく、カリキュラムとしてインターンシップを組み込むべき。

4. 学習成果

①現状における課題点

- ・就職後のリタイアが多いことはどうしてなのか考えていく必要がある。人間関係の大切さに力を入れてみてはどうか。
- ・卒業生・各県支部とのつながりの強化のため、研修会・講習会を企画、話し合い、卒業生の活躍、店舗の情報収集をする体制を整えて発信していく活動しては。
- ・現場での最低限必要とされる能力（技術など）は身に着けさせる。
- ・就職担当による面談や相談しやすい環境は整っているため、内定や資格修得については特に問題ないと思う。卒業後のキャリア形成が問題。

②学校関係者評価委員からのご意見・ご要望

- ・求人企業との意見交換の場を設けて、求人企業の要望の場を作ってはどうか。
- ・同窓会組織との連携を図り、横の繋がりを強化し、情報を共有できることを望む。
- ・在学中にもっと現場との直接的な関わりをさせ、現場のスピード感を意識させる。社会人としての常識や在り方の指導ができるとよい。
- ・求人企業、業界団体、同窓会などと綿密な連携を取り、卒業生の活動状況と問題点を把握し、卒業後のキャリア形成への効果を把握し、次なる学校教育活動の改善につなげていく。

5. 学生支援

①現状における課題点

- ・ 学生支援体制は概ね整っているが、学生に対しての支援内容の周知がより必要である。
- ・ 学生のメンタルケアができる体制を整える。
- ・ 経済的に苦しい学生に対する支援対策の体制を整える。
- ・ 在学中の学生の支援環境は概ね整っていると思う。卒業後の支援について、学生や保護者にももっと周知させるべき。

②学校関係者評価委員会からのご意見・ご要望

- ・ いつでも相談できる環境を作り、支援が充実していることを伝え、周知することが必要。
- ・ 同窓会組織との連携を図り、横の繋がりを強化し、情報を共有できることを望む。
- ・ 学生だけでなく保護者も安心できる学校づくりが必要。
- ・ 学生に対して校友会奨学金制度、留学生対象奨学金制度、校友会奨学金、高等教育の修学支援新制度などを導入しているがさらなる充実に努めてほしい。
- ・ 学生だけでなく保護者も安心できる学校づくりが必要。
- ・ 相談窓口の設置、またその定着化。
- ・ SNS等を使用し、魅力を伝える努力が見られるので良い。

6. 教育環境

①現状における課題点

- ・ 学生・教職員の防災の意識の再確認を行い、より良い環境の維持に努めていただきたい。
- ・ 施設設備の更新も行われており十分だと思う。
- ・ 空調、設備の経年劣化に伴う対応改善。
- ・ 毎年1回の避難訓練は行っているが、職員の防災意識や流れの再確認が必要。
- ・ 保護者との連携は重要である。業界全体の状況を伝え、どうあるべきか、一緒に取り組んでいく姿勢をアピールしていく。
- ・ 火災だけでなく、様々な災害発生時に向けた対策を行うべき。

②学校関係者評価委員会からのご意見・ご要望

- ・ 自分の使う道具だけでなく、設備、機械などの保守管理点検も教育の中に組み入れてみてはどうか。
- ・ 逆に老朽化した機器も少しあっても良いと思う。一般の工場では逆に新品は少ないためそれも当たり前であり、教育・勉強にもつながるのではないか。
- ・ 水害に備え、すでに止水板、食料、水などの備蓄はしてあるが、更なる充実を図る。
- ・ 常に時代のニーズに合わせた機器、器具のリニューアルに努める。
- ・ 職員への災害対策マニュアル化。

7. 学生の受け入れ募集

①現状における課題点

- ・現在の事業は少子化のため、今後は以後のように伸ばすことは難しい。新しいスポット教育などの新しい事業も考えていかなければいけない。
- ・学生募集活動は概ね適正に行われているが、まだまだ学校周知不足である。
- ・学科の宣伝充足を目指し、学校全体で募集活動を行う。
- ・学校周知活動を更に積極的に実施していく。
- ・学生募集についてはこれでいいという事はありません。常にアップデートを重ねてほしい。
- ・入学し、卒業後の不安をどう払拭していくか。

②学校関係者評価委員会からのご意見・ご要望

- ・学生募集には経費がかさむため、工夫が必要。
- ・オープンキャンパスなど、イベントを多く開催している点は評価できる。
- ・入国規制によって減少した留学生数の増員に向け日本語学校などへの募集活動、SNSなどの情報発信により復活させてください。
- ・WEBでの説明会、面接などをより充実させてください。
- ・学生募集に関して、少子化・人口減の中、今まで培った海外との交流をより強力に進め、人員募集に活かしてほしい。
- ・入学希望者が卒業後の未来を描けるような学生募集に力を入れる。そのためにも各企業との連携が必要である。

8. 法令等の遵守

①現状における課題点

- ・法令遵守のために専門家を契約して対応する。
- ・学内の学生・職員等の個人情報のシステムセキュリティー対策、SNSの情報漏えい防止や個人情報保護などを強化を進めていただきたい。

②学校関係者評価委員会からのご意見・ご要望

- ・個人情報の保護に関しては管理状況を随時チェックする必要があるのではないか。
- ・ネットワークへの侵入を防ぐ体制整備に努めることが議題。
- ・毎月階層別会議を実施しつつ、全体ミーティングで情報を共有しているが、意思伝達の機能をより有効にできる方向性を考えていただきたい。
- ・両局の連携、意思伝達の強化。
- ・専門家の意見を参考に学校としての危機管理体制の強化を望みます。
- ・セキュリティ意識の徹底。
- ・専門家を交え、対策を徹底する。

9. 社会貢献・地域貢献

①現状における課題点

- ・ ゴミ拾いなどより仕事を通じての社会貢献体験をすると卒業後の貢献活動がしやすいのではないか。
- ・ 社会貢献、地域貢献、ボランティア活動等に支援を行えるよう努める事はもちろんだが、普段からの学生各個人の常識ある行動を心掛けさせることが大切。
- ・ 地域清掃活動などは実施させてもらっているが、より広範囲の地域貢献、ものづくりマイスター授業を広げていく。
- ・ もっと学校の認知度向上（SNS、学園祭を開催）を行い、知っていただく。

②学校関係者評価委員会からのご意見・ご要望

- ・ 小学校の味覚教育に参加しては？
- ・ 地域小中学生に向けたものづくりマイスターによる授業、体験授業などを実施しものづくりの楽しさを広めていただきたい。
- ・ 学園祭などを通して企業などの連携を図る。
- ・ マスコミなどへのプレスリリース（リリース会社）などをして周知させる。
- ・ 地域企業との公開講座、教育研修などを実施。

10. 国際交流

①現状における課題点

- ・語学力の低い留学生へのサポートをして十分に目標を達成できるように考えていってほしい。学校教科書対訳本の充実をすすめ、授業内容の理解を深めていく。
- ・コロナ禍で、留学生の激減、学生の海外交流の場が激減している。海外交流により、刺激を受けることができるので、オンラインや映像授業などで疑似体験などができると望ましい。
- ・海外同窓会活動など海外卒業生へ向けた発信、連絡網の構築。
- ・欧州姉妹校での研修留学の再開。
- ・海外姉妹校へ向けた国内外講習会の再開を進める。
- ・外国人職員を入社。留学生対応を強化。
- ・コロナの影響は大きかったが、これからは段々と変わってくる。さらなる情報発信を行っていくべき。
- ・国内の留学生の就職率の低さの改善。

②学校関係者評価委員会からのご意見・ご要望

- ・現在はコロナ禍で留学生は少ないが、こんなときほど留学生を大切にし、広報を充実させるべきではないか。
- ・留学生の受入も適正に行われており、特に問題はない。
- ・留学生の就職活動へ向けてさらなる支援充実を進める。
- ・留学生の就職率をあげていければと思う。
- ・より強固な人脈づくりを希望します。
- ・外国語での情報発信の必要があると思います。
- ・留学生会などを活用し、もっとサポートを強化していく。